

2023 年度入試 一般選抜 民事法系出題趣旨

I

(1) 利息と遅延損害金について、前者は消費貸借契約における特約（利息契約）を根拠とするものであるのに対して、後者は債務不履行によって生じた損害の賠償としての性質を有する等の相違点を挙げつつ、それぞれの特徴を的確に叙述できているかをみる問題である。なお、「利息」について、上記とは異なる意味で用いられていると解する余地のある規定があること（民法 575 条 2 項など）に触れてもよい。

(2) 親権と未成年後見人の権限について、権限の内容（未成年の子に対する財産管理権および身上監護権）は同じであるが、財産管理権の行使にあたって用いるべき注意義務の程度が、前者では自己のためにするのと同じの注意であるのに対して、後者では善良な管理者の注意である等の相違点を挙げつつ、それぞれの特徴を的確に叙述できているかをみる問題である。

II

問(1)は、賃借建物につき承諾ある転貸借がされた場合において、賃借人が原賃貸借の賃料を期日に支払うことを 4 か月連続で怠ったときに、賃貸人による原賃貸借の解除が有効であるか否か、また有効であるとした場合に、当該解除による原賃貸借の終了が転借人の地位や転貸借関係の存続にどのような影響を与えるかについて、規範を正確に理解しているか、およびそれを事案に適切にあてはめることができているかを問う問題である。

問(2)は、土地の二重賃貸借がされたがどちらの賃借人も第三者対抗要件を備えていない場合において、当該土地の使用を第二賃借人によって妨げられている第一賃借人は、第二賃借人や賃貸人に対してどのような請求をすることができるかについて、規範を正確に理解しているか、およびそれを事案に適切にあてはめることができているかを問う問題である。

III

当該事項についての理解度を見る。

IV

株式の単位についての理解を見る。

V

株主総会に関する規制についての理解を見る。